

税理士の ひとりごと

No. 153

レアポケモン

税理士 齋藤明

チャッピー（チャットGPT）に聞いてみたところ、税理士の平均年齢はおおむね60歳なのだそうです、私はそのど真ん中にいます。そんな私が「そろそろ自分の引き際を考えないか」と思い立ち、徒然なるままに「会計事務所事業承継相談会」なるものに行ってきたところ、対応してくれた担当者から「『買い』のご相談ですね」と危うく他所の会計事務所の購入を勧められそうになってしまいました。

確かに税理士には定年がなく、税理士会に行くと70代・80代でもバリバリ現役の税理士がたくさんいらつしやいます。だからでしょうか、「自分の引き際を考える際の一助になればと思ってここに來たのです」と説明をしたところ、その若い担当者からは「60歳で引退の相談をされる税理士先生なんて珍しいですよ」なんて、まるで人のことをレアポケモンでも見るような目で見るとのこと。60歳になって引退を考える

なんて、サラリーマンなら当たり前のことだと思うのですが。

あるニュースによると、2025年にAIが人に代わって働くようになった結果、全米で約5万5000件もの解雇があったと伝えられています。それはどうやら、今まで働いている本人でさえ必要がないと感じていて、世の中や社会に何の貢献もしない仕事（いわゆる「ブルシット・ジョブ」）に人々が忙殺されていたところ、AIによって仕事の無駄がなくなったことに起因しているようなのです。その観点から税理士業務を俯瞰してみるとどうでしょう？ とりわけ古くからの会計事務所でも未だに行なわれているような、ノートに領収書を貼って、総勘定元帳に科目のインデックスシールを貼って、毎月雑誌しかしないような月次往査に行く、みたいな仕事はこれからドンドンなくなっていくことは間違いありません。齢（よわい）を重ねることは悲しい